

拝啓

盛夏の候となり、暑い日が続いております。お元気でお過ごしのことと思います。

エンカウンター 8月号お送りいたします。いつもお読み頂き、ありがとうございます。

今月から、ス波尔ジョンの「朝ごとに」から引用いたします。ス波尔ジョンは、19世紀最大の伝道者といわれたイギリスの牧師さんです。「朝ごとに」を初め、何冊かの本や説教集を読んだことがあります。燃えるような迫力のある説教をされた方だと思います。大きな会堂にあふれるほど、大勢の信者が聞きに来たそうです。

今年も11月26日(土)の午後、南原先生の第2回シンポジウムをすることになりまして、準備をしています。チラシができましたら、ご案内いたします。

立花隆さんが文芸春秋の7月号と8月号の「私の東大論」の中で書かれた南原先生の姿は素晴らしいものです。昭和天皇退位論で、立花さんがなされた南原先生の演説の解釈は、なるほどと思いました。私は、気がつきませんでした。

また、高木八尺先生と、戦争終結に重臣たちのところを回られたりしたことが書かれていますが、その動きが天皇の耳に入り、8月のご聖断に結びついたようです。

また、昭和16年に、高木八尺先生が、日米開戦を避けようとして、近衛文麿初め、重臣を回られた事も紹介されていますが、これも初耳でした。高木八尺先生は、私の意見では、南原先生の3人の重要な親友の1人(後の二人は、三谷隆正と坂田祐)ですが、なるほどと思いました。

暑さ厳しい折から、御身体御自愛ください。

敬具

平成17年7月30日

山口周三

エンカウターの読者各位